

令和5年 3月 6日

関係各位 殿

旭保護司会会長 小松 康夫

「保護司会だより旭」発行と送付について

旭保護司会につきまして、平素より、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

この度、保護司会の活動状況などの一環をお知らせ致したく「保護司会だより旭第40号」を発行いたしましたので、ご送付申し上げます。

何卒、ご高覧いただきますよう、お願いいたします。

祝 功労者表彰

令和四年十月十二日の第七十回横浜市更生保護大会において、次の方々が表彰されました。

横浜市長感謝状

横浜市会議長感謝状

石村 利幸
出井 善次
澤野 研
杉山 良美

令和四年十一月三十日の第七十三回神奈川県更生保護大会において、次の方々が表彰されました。

全国保護司連盟理事長表彰

関東地方更生保護委員会委員長表彰

関東地方保護司連盟会長表彰

横浜保護観察所長表彰

高橋 美登
飯島真知子
岡本三千男
田中 康公
恒成 文幸
小林 元和
新川 武雄



横浜市社会福祉センターにて



藤沢市民会館にて

事務局より



旭区社会福祉協議会
山村 凜子

本年度より保護司会事務局担当となりました。

最初の大きな行事が、令和五年二月に開催された、保護司会と更生保護女性会の合同研修会でした。合同研修会の打ち合わせのため、何度かサポートセンターにお邪魔しました。保護司会事務局担当として、しっかりと責任を果たさねばならないと気を張っていた私に、小松会長をはじめ保護司の皆様が温かく声をかけてくださったことが印象に残っています。

社会福祉協議会に入職してからまだ日が浅く、お手伝いをさせていただいてはいませんが、実は大學生の頃に私は社明運動に関わらせていただいたことがあります。所属していた吹奏楽部の活動として、東京都の社明運動のパレードに参加し、更生保護活動について知るきっかけとなりました。

未熟者ではございますが、保護司会の皆様のお力になれるよう、精一杯努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

保護司会だより 旭

発行所 旭保護司会広報部
発行責任者 会長 小松 康夫
事務局 旭区社会福祉協議会
旭区鶴ヶ峰 1-6-35 ばれっと旭
印刷所 小松印刷株式会社



第32回旭ふれあい区民まつり ばれっと旭前にて



↑(アネモネ)
撮影：原田 憲夫
←(布袋)
撮影：秋岸 寛久



趣味のコーナー

アネモネの花開くとき君もまた新たな道へ歩き出すなり
さあ立てと君に語りし清い声ふと振り向けば白き本蓮

アネモネの微笑み送る歌となり 原田 憲夫

重力の離脱 紙む半仙戯

紙飛行機指より離陸春を舞ふ 廣田 敏郎

絵馬揺らすカラシコロシと春の風
ミモザ咲く英国暮らしのインスタに 土岐 典子



中学校の現状

都岡中学校校長 佐久間 桂一

現在、旭区内には中学校が、十二校あります。来年度は、上白根中学校と旭北中学校が統合し、上白根北中学校として新たに開校され、十一校となります。それぞれ学校ごとに生徒の特性や状況は違いますが、旭区内の中学校で共通している中学校の現状について書かせていただきます。

三年前よりコロナ感染症の拡大による休校や時差登校、感染拡大防止における学校生活の急激な変化(昼食時の黙食や全員が一定方向を向いて食べる、マスクをしての生活、人との距離を保つ、何かを行ったときは、消毒をする、体育祭や合唱コンクールの中止や時間短縮、内容の簡略化、部活動の制限など)の影響もあり、登校できない生徒や自傷行為・オーバードーズをしてしまう生徒、希死念慮を持つ生徒などが増加しています。また、「いじめ」の様態も変化しており、コンピュータやスマートフォンを使ってSNS上での誹謗中傷などが増えているとともに、なりすましや写真の拡散などSNSのトラブルも増えています。

登校できない生徒に対して、横浜市では、「どこでもスタディー」と銘打って、各校で工夫した取り組みを行っています。旭区内では、特に、GIGAスクール構想で一人一台の端末が使用できることとなり、それを利用した学習をする学校が増えています。また、希死念慮を持つ生徒などの増加は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの方々の支援を受けながら、医療機関や児童相談所などの関係機関と連携して生徒の指導に当たっています。SNSのトラブルについては、学校外の事であり、なかなか実情を把握することが難しいことからご家庭の協力に期待する面もあります。

今、学校では今までにない問題行動の対応が求められています。学校だけで対応することが困難な事が多々あります。これからは、更に区役所、児童相談所、保護司会、警察、医療機関など様々な関係機関と連携していくことが大事かと考えています。

編集後記

久しぶりに二面上段の写真を会員の活動集合写真としました。そこで、ここ数年の写真を確認しましたところ風景写真あり、絵画あり、手芸作品ありと多種多彩で幅の広いものでした。また、趣味のコーナーにおいても、いろいろな方が投稿されており、今後とも皆様の活発な投稿をお願いいたします。(記 廣田)



旭保護司会との連携

横浜市立万騎が原中学校校長 中村 雅一



平成二十八年より生徒指導専任教諭協議会顧問を務めています。
顧問就任当初は区内でも生徒間や対教師への暴力事案を始め、オートバイ盗など、外に対しての非行を起こす少年たちが一定数いました。当然に家庭裁判所で「保護観察」の保護処分は付される少年もおり、個別ではあっても保護司の先生と専任教諭が連絡を取り合い、少年の更生に向けて、その少年のかかえる問題について情報のやりとりをする連携が中心となっていました。
「ヤンキー」「不良」などと、形容される少年たちは、学校でも授業中に勝手に教室から出て校舎内をふらついで、それが二人、三人となり廊下に座り込んでスマホをさわたり、校舎の陰でタバコを吸い、教師の強い注意に対しては力で反抗する、それはそれは、私たち教師は手を焼かされました。
そんな彼女らも個別に関わっていくと、その多くが家庭的に恵まれなかったり、広汎性発達障害や幼少期の親からの虐待等少なからず辛く過酷な少年時代を過ごして今に至っていることがわかります。保護司の先生も専任教諭もそんな彼、彼女のかかえる問題へどう支援ができるのか苦悩しながら、お互いの連携、協力も自然と深めていったように思います。
ここ数年は少年非行の減少と共に、区内の子供たちの非行は以前のような

反抗を表に現した非行ではなく、逃避的で家出や無断外泊、インターネットの中での誹謗中傷等が増えています。これは、より子供たちの様子がわかりにくくなっていることでもあります。
これまでも、旭保護司会と専任協議会とは年間に最低一回の全体会を保護観察官の方を交えて行い、その後懇親会で親睦を深めてまいりました。加えて、地区ごとのブロックでの情報交換も行っています。こうした連携が見えにくくなっている子供たちの心の理解に必要であることは言うまでもありません。そして、今後も少年たちの立ち直りに必要なことは何なのか、大人たちは少年にどう関わればよいのかを保護司会の皆さま方と一緒に考えていける関係でありたいと思っています。どうぞよろしく
お願い申し上げます。



保護司会と専任教諭の合同研修会

映画 プリズン・サークル 合同研修会報告

研修部長 黒須 正明

二月八日旭区民文化センターサンハートを会場として保護司会と更生保護女性会の合同研修会「映画プリズン・サークル」の上映を行いました。この映画は「島根あさひ社会復帰センター」という官民協働の新しい形の刑務所に二年の期間カメラを入れて撮影された真実のルポルタージュです。ここでは「TTC」という受刑者同士の対話をベースとして犯罪の原因を探り更生につなげていくという日本で唯一のプログラムを実施しています。

映画では受刑者の若者たちが自分の生い立ちを初めて語り合い、虐待、偏見、いじめ、差別を振り返り、心の奥に秘めていた感情をはき出して心を空っぽにします。同時に安心できる心の拠り所がなかった自分の弱さ、被害者の受けた恐怖や心の傷など今まで考えに至らなかった事に気づいていきます。
そこが再生のスタートになります。映画ではこの真実のやりとりがひたすら続きます。会場内は参加者の息をのむような気配につつまれました。
去年はイケメン俳優も出る娯楽要素もあった映画会でしたので、今年是一般の方には少し重たい内容だったかなとも感じていました。しかし真実のやりとりの持つインパクトを実感していただいた帰りの表情を見ると学びの機



復活

「社会を明るくする運動」

広報部 出井 善次

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となっていた「社明駅頭キャンペーン」、「今年こそ！」と意気込んだ準備であった。しかし予定した七月十五日（金）が台風接近で豪雨が予想されて又もや中止。
引き下がるわけにはいかない、こ

の意気込みを踏まえて、保護司会は更生保護女性会の方々と共同して「旭ふれあい区民まつり」《十月十六日（日）》に参加して、覚醒剤の乱用やそれに繋がる犯罪等、絶対に阻止しなければならぬ啓発活動を実施した。のぼり旗をたて「社明運動」の標を掛けたスタイルで、会場の旭区役所駐車場と緑道隣駐車場にいられた方々、相鉄線鶴ヶ峰駅に向かう区民や銚子橋商店街にいられた方々にリーフレットやティッシュペーパー等を配布した。
秋の日本晴れの天気とはいかなかったが、啓発活動は予定された二千部以上を三十分ほどで配布し終えた。配布する時に「こんにちは！」「私達は保護司ボランティアをしています。どうぞお受け取り下さい」と笑顔で声を懸けて、青少年非行防止等の説明をする熱心に耳を傾けて下さり、労いの言葉を掛けてくださる区民の方々も多くいらっしやうった。有り難うございました。



旭区役所第一駐車場にて

旭区は、「鎌倉殿十三人」で放映された畠山重忠ゆかりの地であることから、「鶴ヶ峰史跡巡り」に訪れた人も多く、久しぶりの今年の「社明駅頭キャンペーン」は成功裡に展開することができた。



藤根 強

私は保護司になって十六年余になります。定年後は、犯罪や非行をした人を更生させる仕事をして地域に貢献したいと希望を持っておりました。定年を迎えると同じ職場の先輩が、「保護司をしているがやりがいがあるのやってみないか、この本読めば分かる」と、声を掛けて来たのです。読むと概要が分かり、多少の不安は脳裏をかすめました。引き受けることにしました。家族も「社会貢献は立派な仕事、

私が保護司になったわけ



伊藤 喜代子

息子が中学生の時、PTA役員をさせていただきました。その時の仲間がボランティア活動していることを聞きまして。私も地域への恩返しをしなればと思っていたところ当時の町内会長さんに推され、先輩保護司の松永さんにアドバイスを伺いながら保護司として進み出しました。
途中母の介護が始まり八年余続きましたが、自宅での面接のため保護司



梅（鑑の渡し緑道） 撮影：伊藤 喜代子

反対しません」と賛同してくれました。これまで多数の対象者を担当してきましたが教わることもあり、再犯した時は指導監督などに不足があったかと思ひ悩み、改善更生の難しさを肌で感じた次第です。
昨年十月から二年間の特例再任に入り活動中ですが、今後もご指導宜しくお願いします。

活動が出来ました。
この経験は私の宝だと思っております。新しい対象者に出会うたび勉強させてもらっています。一人で気負わず、缶コーヒーで気分を解さほぐして話を聞いてます。
子育てをしていた時は、つい「早く」という言葉が出ていました。面接時間をすぎた対象者には待つ事が出来るようになりました。「忘れた」寝てた「今外出中だから」等々、保護司を悩ませることは多々あるのです。今日も私は待っています。